

特別寄稿

日本スポーツ栄養学会 17 期における実践活動報告 / 症例報告執筆支援活動 ～次のステージに向けて～

柳沢 香絵

日本スポーツ栄養学会会長、相模女子大学

I 日本スポーツ栄養学会17期における実践活動報告/症例報告執筆支援活動

日本スポーツ栄養学会（JSNA）は、スポーツ栄養学領域における研究の促進と情報提供、専門家の教育・養成を図り、スポーツ栄養学の進歩・普及、選手の競技力向上、国民の健康増進に寄与することを目的として活動を続けてきた。前身となる日本スポーツ栄養研究会の設立から20年となり、NPO法人化された2007年から今年度で18期目を迎える。

JSNAは日本スポーツ協会と日本栄養士会が共同認定する公認スポーツ栄養士養成が開始した2008年当初から主管として、専門家の教育・養成関連事業に力を入れてきた。

一方、スポーツ栄養学における研究の推進と情報共有に関わる学術事業が課題であったため、NPO13期から特にその強化を行ってきた。なかでも実践活動報告/症例報告の推進は中心となる活動であり、NPO13期～16期までの具体的な取り組みと成果を前会長の木村典代先生が報告されている¹⁾。NPO16期の活動として開催された第9回学会大会（龍谷大学・京都）での実践活動報告/症例報告（スポーツ栄養マネジメント報告含む）の演題発表数は55演題と過去の大会に比べ最も多く、調査研究部門の演題発表数とほぼ同数まで増加した。このように4年間の取り組みにより学術事業に積極的に参加する会員が増え、その成果も得られたと言える。

新体制となったNPO17～18期においても、学術事業のさらなる強化を目指し、国内での応用的、実践的スポーツ栄養学の基盤づくりを目標に活動を行っていくこととした。実践活動報告/症例報告の推進は引き続き重点的に取り組み、すべての事業の根幹となることを方針とした。

NPO17期の実践活動報告/症例報告推進の取り組み

を表1に示した。（1）公認スポーツ栄養士更新研修は、スポーツ栄養の現場における実践活動に必要な知識や最新の学術情報を入手するための内容で4単位を構成していたが、その半分2単位をスポーツ栄養士自身が実践活動報告/症例報告をまとめ、情報発信をするための知識・スキルに関わる内容とした。（2）スポーツ栄養学研究セミナーは公認スポーツ栄養士更新研修と同様の内容を広く会員に情報提供するものとした。

（3）会員のひろばは、執筆活動に向けた会員同士の交流会であり、競技種目や競技レベル、年代など幅広いスポーツ選手の指導や栄養管理における課題や悩みを掘り下げる機会となっている。コロナ禍以降オンラインで開催していたが、参加者からの要望をもとに第10回学会大会（女子栄養大学・埼玉）では対面で開催する。（4）マッチング企画は、実践活動報告/症例報告を書きたいスポーツ栄養士とそれを支援したい研究者が出会い、執筆に向けた話し合いを行える場、執筆のパートナーを見つける企画である¹⁾。第3回までのマッチング企画をきっかけに6本のショートレポートが研究誌サプリメントに掲載されている（Vol.17 Supplementを含む）。また、第10回大会では、一般演題の発表内容を研究者と共同で論文化することを希望する場合、発表スライドに「マッチング希望演題」と表示する試みを行う。（5）研究誌投稿規程参考資料及びショートレポート執筆簡易マニュアルでは、原稿執筆フローチャートが改訂されており、実践活動報告と症例報告の区別と執筆のポイントが分かり易く示されている。

II 研究誌サプリメントにおける実践活動報告/症例報告ショートレポートの概要

日本スポーツ栄養研究誌のサプリメントは、実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめた特集

表1 17期における実践活動報告/症例報告の推進に関わる学会事業

事業	内容	日程	参加者
(1) 公認スポーツ栄養士更新研修	実践活動で得られる質的データの特徴とまとめ方－自身の活動の省察と社会への発信を目的に－	2023年11月21日～30日	255名
	競技現場の栄養サポートで得た量的データのまとめ方		256名
(2) スポーツ栄養学研究セミナー	実践活動で得られる質的データの特徴とまとめ方－自身の活動の省察と社会への発信を目的に－	2023年12月25日～2024年1月9日	20名
	競技現場の栄養サポートで得た量的データのまとめ方		19名
(3) 会員のひろば	オンライン開催	2024年2月18日	10名
	対面での開催	2024年9月21日～22日(第10回大会)	—
(4) 実践活動報告/症例報告執筆マッチング企画	第2回	2023年10月22日	スポーツ栄養士・管理栄養士5名 研究者4名
	第3回	2024年3月31日	スポーツ栄養士・管理栄養士4名 研究者6名
	一般演題におけるマッチング希望表示	2024年9月21日～22日(第10回大会)	—
(5) 日本スポーツ栄養研究誌	投稿規程参考資料 原稿執筆フローチャート改訂	2024年1月25日	—
	実践活動・症例報告関連資料 ショートレポート執筆簡易マニュアル改訂		
(6) 第10回大会 学会企画	実践活動報告/症例報告を書いてみよう！－執筆から採択までを振り返る－	2024年9月21日～22日	—

表2 日本スポーツ栄養研究誌サプリメントにおける実践活動報告/症例報告 ショートレポートの概要*

対象	競技種目	サッカー(2)、バスケットボール、野球、ハンドボール、ボウリング、トレイルランニング(2)、自転車、スピードスケート、レスリング、柔道、新体操(2)、パラカヌー、不明(2)
	競技レベル	プロリーグ(2)、国際大会レベル(1)、全国大会レベル(2)、都道府県・地方大会レベル(2)、その他(1)、不明(9)
	年代	成人(7)、大学生、中高生(8)、小学生
栄養サポートの目的		体組成の改善、増量、疲労回復、超長距離競技のエネルギー補給、暑熱対策・脱水予防、女性アスリートの三主徴対策、試合前の体重調整、食行動の改善、ジュニアアスリートの栄養教育 ほか
実践活動報告の工夫、症例報告の観察内容		栄養アセスメント法(食事調査法、身体計測指標、生理学的指標)、エネルギー消費量、血糖値、栄養教育法・栄養教育ツール、補食(濃厚流動食、米飯、果物、エネルギー設定など)、ほか

*日本スポーツ栄養研究誌15号及び16号サプリメント、JSNA学会ホームページ早期公開版に掲載された17件を対象とした^{1)～3)}。()は件数を示す。

号として発刊されており、本号で3巻目となる。掲載論文数は増えてきており、3巻合わせて23件となった。それらの概要を表2に示した^{1)～3)}。

対象の年代や競技レベルを見ると年齢層は幅広く、必ずしもトップアスリートに限定されていない。競技は、球技系、持久系、瞬発系、審美系、障がい者スポー

ツなどカテゴリーは多岐に渡るが、スポーツ現場でのさまざまな事例を蓄積する点からはさらに競技種目が増えることが期待される。栄養サポートの目的や実践活動の工夫や症例報告の観察内容などもさまざまである。これらのことは、実践活動報告/症例報告においては特別な条件がないと執筆できないわけではなく、

現在の活動や身近な事例から得られたデータ・情報を見直すことで、新たな課題や興味深い点に気づき、投稿につながる可能性があることを示す。

Ⅲ おわりに

これまでJSNAの電子版研究誌は学会ホームページ上で既にオープンアクセス化されていたが、外部データベースであるメディカルオンラインでの公開も開始した(2024年3月～。研究誌サプリメントも公開予定)⁴⁾。また、現在さらに、メディカルオンライン以外の外部データベースへの登録準備も進めている。スポーツ栄養に興味を持つ会員以外の多くの人たちにも調査研究や実践活動の成果を見ていただける良い機会であり、スポーツ栄養士、研究者ともに研究誌への投稿にチャレンジしていただきたいと考えている。

研究誌サプリメントでショートレポートを投稿された方はさらに文量の多い原稿区分へ、マッチング企画でショートレポートをまとめられたスポーツ栄養士と研究者ペアでは新たな研究へとつながっていくことを期待している。一方、執筆に至っていない方は各種講

習会や研修に参加し、情報収集からはじめてもらってもよいだろう。さらに、スポーツ栄養現場での実践活動における具体的な悩みやまとめ方に不安がある方は、会員のひろばやマッチング企画に参加されることをお勧めしたい。

学会事業への参加を通じて、会員全員が自分なりに半歩ずつでも前進していただければJSNAとして活動を行う意義につながる。さらに、そのことが学会としてスポーツ栄養学の基盤を高める大きなステップにつながると考えている。

文 献

- 1) 日本スポーツ栄養研究誌, 16 supplement (2023)
- 2) 日本スポーツ栄養研究誌, 15 supplement (2022)
- 3) NPO 法人日本スポーツ栄養学会: 最新の研究誌ダウンロード 早期公開版, 最新の研究誌ダウンロード | 会員専用ページ | JSNA - NPO 法人日本スポーツ栄養学会 - (2024年7月12日)
- 4) メディカルオンライン: 日本スポーツ栄養研究誌, 医学文献検索サービス - メディカルオンライン (medicalonline.jp) (2024年7月12日)